

島根県奥出雲町：暮らしを豊かに、未来へつなげるプロジェクト



事業計画の特徴

- 個人向け太陽光発電設備について、本事業の補助に加え**町内事業者の場合は通常の上乗せ協調補助に加えてさらに5万円/kWの上乗せ協調補助を実施し、町内事業者の育成を図る。**また、**地域金融機関（山陰合同銀行）と連携し、再エネ設備導入に係る借入において発生する利息相当額に、（地域エネルギー会社）奥出雲電力㈱の事業利益の一部からの寄附金を財源とする町の基金から補助する利子補給制度を創設。**
- 本事業を活用し**垂直型太陽光パネルを用いた太陽光発電設備を導入し、豪雪地域において冬期間の積雪反射光を最大限活用した発電を実施する。**
- 公共施設においても、屋根置きほかに**垂直型太陽光パネルを、奥出雲電力㈱が導入。**

※2030年度までに公共・公用施設の電力消費に伴うCO2排出を実質ゼロとする。

事業計画の概要（民間）		再エネ：700kW
取組（個人）	規模	
太陽光発電設備の導入	110件 604kW	
蓄電池の導入	110件 770kWh	
HEMSの導入	36件	
バイオマス熱利用設備導入	46件	
既存住宅断熱改修	12軒	
高効率空調設備	45件	
取組（事業者）	規模	
太陽光発電設備（PPA等）	1件 96kW	
事業計画の概要（公共）		再エネ：254kW
取組	規模	
学校施設等への太陽光発電設備の導入	4件 254kW	
学校施設等への蓄電池の導入	4件 65kWh	
未利用熱利用設備（地下水熱／地中熱）の導入	2件	

事業計画の効果・費用

再エネ導入	CO2削減	事業費	交付金額	計画期間
954kW	7,429 t-CO2	6.3億円	3.6億円	令和7年度 ～ 令和11年度

取組のイメージ

奥出雲町の特徴			暮らしを豊かに、未来へつなげるプロジェクト
① 積雪寒冷地：1日あたり積雪量 20～50cm の降雪が年に複数日あり、交通障害が発生しやすい 2月の月平均気温 -0.8℃ の寒冷地			
② 小学校再編：全町域で小学校を再編し、10校を2校へ統合、周辺地域からのバス通学が開始			
地域課題	実施事業	効果	
教育 冬季積雪による統合小学校バス停での交通渋滞	未利用熱（地下水／地中熱）を利用した融雪設備導入	統合小学校バス停での交通渋滞解消 安全・安心な児童輸送体制 環境教育の推進	
健康 気密・断熱性の劣る既存住宅ヒートショック等の健康への懸念	既存住宅断熱改修 バイオマス熱利用設備導入	ヒートショック等の健康被害減少 寒冷地でも安心して暮らせる住まい	
再エネ 個人・事業所への再エネ設備普及	個人：太陽光発電設備、蓄電池、HEMSの補助 事業所：島根県と連携した町単独補助	再エネ設備の普及 温室効果ガスの排出量削減 脱炭素への意識醸成	
再エネ 冬季積雪による太陽光発電量の減少	垂直型発電設備の導入（脱炭素先行地域事例横展開）	積雪の影響がなく雪面の太陽光反射を有効活用し冬季の太陽光発電量を確保	
安心安全に暮らせる持続可能なまちづくり × 2050年度までに脱炭素社会の実現			